

## 野上記念法政大学能楽研究所

## 【2024 年度大学評価総評】

自己点検・評価シート「I 現状分析」の「基準 8 教育研究等環境」において、研究倫理の順守を図る取り組みについて、「今後、研究倫理の遵守を周知する何らかの方法を検討し、改善に努めたい。また、他の研究所での研究倫理の遵守を図る取り組みのヒアリングをも行い、情報収集に努める計画である。」との改善策が提示されている点は一定の評価はできるが、所員参加の会議において、また所員宛の文書により周知を図ることは比較的容易に実施できると思われるので、ぜひ前向きに検討いただきたい。

2023 年度中期目標・年度目標達成状況報告書において、「能楽資料総合デジタルアーカイブの実現」、「英語版能楽資料デジタルアーカイブ 54 点の画像データ、4 点の目録データのアップ」という成果が報告されているのに続いて、2024 年度中期目標・年度目標においては、「能楽資料総合デジタルアーカイブ」および「金春家文書デジタルアーカイブ」の拡充、さらには「英語版能楽全書」の刊行について具体的な達成目標を設けて、その実現に取り組む点は高く評価できる。これらの施策を通じて、能楽研究所が所蔵する膨大な能楽資料の網羅的横断検索が可能になり、学際的・国際的な能楽研究拠点と認識されることを期待する。

## 大学基準協会の第 4 期大学基準に基づいた評価項目の充足状況の確認

2024 年度自己点検・評価シートに記載された I 現状分析を確認	「いいえ」が選択されている評価項目があるが、課題が見いだされ、適切な改善計画が立てられていることが確認できた。
--------------------------------------	---

## 【2024 年度自己点検・評価結果】

## I 現状分析

## 基準 1 理念・目的

- 1.1 大学の理念・目的を適切に設定すること。また、それを踏まえ、学部及び研究科の目的を適切に設定し、公表していること。

1.1①研究所（センター）の理念・目的を明らかにしていますか。	はい
1.1②研究所（センター）の理念・目的を規則等に明示し、かつ教職員及び学生に周知し、社会に対して公表していますか。	はい
【根拠資料】	
<a href="https://nohken.ws.hosei.ac.jp/about/greeting.html">https://nohken.ws.hosei.ac.jp/about/greeting.html</a>	

## 基準 2 内部質保証

- 2.1 内部質保証のための方針を適切に設定していること。また、教育の充実と学習成果の向上を図るために、内部質保証システムを整備し、適切に機能させていること。

2.1①研究所（センター）において、研究所長（センター長）及び運営委員会等の権限や責任を明確にした規程を整備し、規程に則った運営が行われていますか。	はい
2.1②研究所（センター）において、自己点検評価結果を活用して改善・向上に取り組んでいますか。	はい
【根拠資料】	
<p>研究所の活動が正しく運営されているかを検証するための組織としては、原則として毎月開催の能楽研究所運営委員会があり、日常的な業務についての報告・審議・承認などが適切に行われているほか、拠点としての事業については「野上記念法政大学能楽研究所共同利用・共同研究拠点運営委員会」「野上記念法政大学能楽研究所共同利用・共同研究拠点公募型共同研究課題専門委員会」が運営されており、実質的な内部質保証システムとして機能している。上記委員会の委員長・委員の権限・責任については、下記規定に明示されている。</p> <p>「野上記念法政大学能楽研究所規程」（規程第 153 号）  「野上記念法政大学能楽研究所共同利用・共同研究拠点運営委員会規定」（規定第 1134 号）  「野上記念法政大学能楽研究所共同利用・共同研究拠点公募型共同研究課題専門委員会規定」</p>	

(規定第 1135 号)

また、自己点検評価結果及び上記運営委員会・専門委員会における改善の指摘に関しては、研究所の活動の質向上のために活用し、一つ一つ改善に取り組んでいる。

**基準 3 教育研究組織**

部局による自己点検・評価は実施しない

**基準 4 教育・学習**

部局による自己点検・評価は実施しない

**基準 5 学生の受け入れ**

部局による自己点検・評価は実施しない

**基準 6 教員・教員組織**

部局による自己点検・評価は実施しない

**基準 7 学生支援**

部局による自己点検・評価は実施しない

**基準 8 教育研究等環境**

8.1 研究活動に関わる支援、条件整備を通じ、研究活動の促進を図っていること。また、健全な研究活動のために必要な措置を講じていること。

8.1①「法政大学研究倫理規程」に沿って、学生も含めて研究倫理の遵守を図る取り組みを行っていますか。	いいえ
【根拠資料】	

**基準 9 社会連携・社会貢献**

9.1 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施していること。また、教育研究成果を適切に社会に還元していること。

9.1①「研究及び社会貢献に関する方針」のもと、学外機関・地域社会等との連携、大学が生み出す知識、技術等を社会に還元する取り組みを行っていますか。	はい
【根拠資料】	
学会との共催企画(学外機関との連携・知識の還元) <a href="https://kyoten-nohken.ws.hosei.ac.jp/info/2024/4909/">https://kyoten-nohken.ws.hosei.ac.jp/info/2024/4909/</a> <a href="https://kyoten-nohken.ws.hosei.ac.jp/info/2024/4796/">https://kyoten-nohken.ws.hosei.ac.jp/info/2024/4796/</a>	
能楽賞・催花賞の選考(社会との連携) <a href="https://nohken.ws.hosei.ac.jp/activities/awards.html">https://nohken.ws.hosei.ac.jp/activities/awards.html</a>	
能楽セミナー「アニメと能楽」の開催(知識の還元) <a href="https://nohken.ws.hosei.ac.jp/activities/events.html">https://nohken.ws.hosei.ac.jp/activities/events.html</a>	

**基準 10 大学運営**

部局による自己点検・評価は実施しない

上記の現状分析結果において、【いいえ】と回答した項目があった場合は、その理由と改善計画について記入してください。

大学基準	【いいえ】と回答した点検・評価項目を記述してください
8 教育研究等環境	8.1①「法政大学研究倫理規程」に沿った研究倫理の遵守を図る取り組み
【いいえ】と回答した理由と、改善の必要がある場合、改善計画について記述してください。	
現状では研究所主体での研究倫理遵守のための取り組みは行っていないが、研究所の専任所員・兼任所員の大半は科研費の共同研究のメンバーとして研究倫理教育「APRIN e ラーニングプログラム(eAPRIN)」を受講しており、研究倫理遵守への対応は適切に行われている。しかしながら、一部の兼任所員及び公募型共同研究の客員所員については、研究倫理教育の受講を課しておらず、改善すべき点も多い。今後、研究倫理の遵守を周知する何らかの方法を検討し、改善に努めたい。また、他の研究所での研究倫理の遵守を図る取り組みのヒアリングをも行い、情報収集に努める計画である。	

## II 改善・向上の取り組み

### 1 2023年度 大学評価委員会の評価結果への対応

<p><b>【2023年度大学評価結果総評】(参考)</b></p> <p>野上記念法政大学能楽研究所は、国内外の研究者と協力して、豊富な文献資料に基づく研究を行っている国内唯一の能楽に関する総合的な研究機関であり、法政大学において特筆すべき存在となっており、外部資金の獲得等による継続的な研究とその成果普及に尽力している。昨年度には『英語版能楽全書』の編集が終了し、その普及のために海外への情報発信を目指し、英語版能楽資料デジタルアーカイブのサイト構築に取り組む予定である。また、HOSEI ミュージアムでの展示も好評を博しており、本年度以降継続的な開催が期待される。これらの取り組みによって、能楽の魅力が日本だけでなく、世界に広まることを期待している。</p> <p>本年度の目標としては、能楽資料の網羅的な横断検索が可能なサイトの公開や、英語版能楽資料デジタルアーカイブのサイト構築、普及・社会貢献のための講座などについて、具体的な数値目標を設定している点は高く評価できる。ぜひ、これらの目標を達成していただきたい。</p> <p>「研究倫理を遵守するための必要な措置を講じ、適切に対応しているか」に関して、専任所員・兼任所員がいずれも科研費の共同研究のメンバーとして研究倫理教育「APRIN e ラーニングプログラム(eAPRIN)」を受講し、現状において適切に対応されていることを確認した。今後は、科研費のメンバーではない新たな専任所員・兼任所員が加わる場合、学際的な研究を進めていく中でアンケートや個人情報取り扱いが必要となる場合などが考えられることから、あらかじめ適切な措置を講じることが望まれる。</p>
<p><b>【2023年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】</b></p> <p>昨年度の総評で、本研究所が掲げた目標について期待を寄せていただいたが、幸い、能楽資料の網羅的な横断検索が可能となるサイトの公開、英語版の能楽資料デジタルアーカイブのサイト構築、普及・社会貢献のための講座等の開催、すべて、数値目標を達成できた。</p> <p>HOSEI ミュージアムでの展示については、各研究所が数年に一回ずつ受け持つ責務と心得て力を尽くしたので、また数年後に担当がまわってきた際には学内のミュージアムという特性を考慮して真摯に取り組むつもりである。「継続的な開催」は毎年という意味ではないと理解している(能楽研究所だけがHosei ミュージアムと特に深く結びついて活動の場を得ることも、何らかの義務を負うことも、本来のHosei ミュージアム構想から外れる在り方で、避けるべきと考えている)。</p> <p>研究倫理遵守のための措置に関して、今後のメンバーの変化や増加を考慮して「あらかじめ適切な措置を講じることが望まれる」との御指摘には深く納得しながら、2023年度中は具体的なアクションを起こすには至らなかった。学際研究の場合、共同研究の代表者たちがしっかりした研究倫理教育を受け、個人情報の扱い等に関しても豊富な経験を持っていることが多かったため、問題意識が鈍りがちだったが、実際、新たに加わった若い兼任所員は研究倫理教育を未受講である。喫緊の課題として取り組んでいきたい。</p>

## 2 各基準の改善・向上

### 基準6 教員・教員組織

6.3 教育研究活動等の改善・向上、活性化につながる取り組みを組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上につなげていること。

6.3①研究所（センター）内で教員の研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るために、組織的な取り組みを行い、成果を得ていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	S（さらに改善した又は新たに取組んだ）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
「共同利用・共同研究拠点運営委員会」における外部委員の指摘を踏まえ、英語版の能楽資料デジタルアーカイブ「Noh and Kyogen Rare Materials Digital Collections」を新たに作成した。英語による能楽資料の解説原稿は、2023年1月に着任した兼任所員が担当した。		

## 基準9 社会連携・社会貢献

9.1 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施していること。また、教育研究成果を適切に社会に還元していること。

9.1②社会連携・社会貢献に関する取り組みにより、地域や社会の課題解決等に貢献し、大学の存在価値を高めることにつながっていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A（概ね従来通りである又は特に問題ない）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		

## III 2023年度中期目標・年度目標達成状況報告書

評価基準	研究活動	
中期目標	学際的・国際的な能楽研究拠点として、研究資源である貴重資料の公開や基礎研究を進めるとともに、より広い領域の研究者との協同プロジェクトを展開していく。	
年度目標	多分野の研究者との共同プロジェクトを進める前提として、能楽研究所が所蔵する膨大な能楽資料の網羅的な横断検索が可能なシステムを確立し、データの拡充に努める。また、国際的な能楽研究の推進のため、英語版の能楽資料デジタルアーカイブの構築を目指す。	
達成指標	能楽資料の網羅的な横断検索が可能なサイトの公開。新たに能楽資料 300 点以上をデータベースにアップ。英語版能楽資料デジタルアーカイブのサイトの構築。	
年度末報告	執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	能楽研究所が所蔵する膨大な能楽資料の書誌・画像データを横断検索することのできるサイト「能楽資料総合デジタルアーカイブ」の公開を、2023年12月に実現した。2023年度末までに古典籍 215 点、近代能楽雑誌 195 冊のデータをさらに追加する予定である。加えて、本年度は英語版の能楽資料デジタルアーカイブの構築にも取り組み、「Noh and Kyogen Rare Materials Digital Collections」として新規サイトを新たに立ち上げることが出来た。現在公開に向けた最終的な作業を行っているところである。
改善策	特にないが、今後も継続してデータのアップに努めたい。	
評価基準	社会連携・社会貢献	
中期目標	学際的・国際的な能楽研究拠点として、研究資源と研究成果を積極的に還元するとともに、能楽界とも連携を強め、能楽の発展と世界への文化発信に寄与するよう努める。	
年度目標	英語版の能楽資料デジタルアーカイブに最新の研究成果を盛り込むとともに、能楽の普及・研究成果の社会還元に向けた様々な取り組みを展開する。	
達成指標	英語版能楽資料デジタルアーカイブに 20 点以上の目録・画像データをアップ。普及・	

	社会貢献のための講座等 5 件以上。	
年度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	英語版能楽資料デジタルアーカイブに 54 点の画像データ、4 点の目録データをアップした。普及・社会貢献のための講座は 8 件実施した。
	改善策	次年度は目録データの作成に努め、全ての画像データにそれに対応する目録解説を掲示できるようにしたい。
<p>【重点目標】 能楽研究所が所蔵する膨大な能楽資料の網羅的横断検索が可能なシステムの確立とサイトの公開。</p> <p>【目標を達成するための施策等】 専任所員だけでなく、兼任・兼担の各所員とも協同し、能楽研究所の所蔵資料の目録データの整備に努めるとともに、RA の協力も得て、近代能楽雑誌のデジタル化を大きく前進させる。システムの構築とデータのアップについては、文科省機能強化支援の研究資金を積極的に活用する。</p>		
<p>【年度目標達成状況総括】 本年度は能楽資料総合デジタルアーカイブの公開と英語版能楽資料デジタルアーカイブの構築・公開を最優先の事業として取り組んできた。当初掲げた年度目標は概ね達成され、特に近代能楽雑誌のデータ化が当初想定していた以上の進展を見るなど、順調に作業が進んでいる。一方、英語版能楽資料デジタルアーカイブは、今年度は全体の枠組みの構築に主に取り組んだため、個々の資料の解題目録データはサンプルとして 4 点を掲出するにとどまった。来年度中に、全点の目録データを完成すべく、現在取り組んでいるところである。前者の能楽資料総合デジタルアーカイブは、これまで閲覧が容易ではなかった、近代能楽雑誌を目次情報から検索し、個々の記事に直接アクセスできる画期的なもので、また、各文庫に分かれていて、横断検索が難しかった古典籍の閲覧にも大変有用なものである。今後大いに活用され、研究の進展に大きく寄与するものと考えられる。その他、これまでは曲名からの検索が困難であった「能御絵鑑」のデジタルアーカイブを見やすく改修した他、「謡曲仏教関連語句データベース」「謡曲詞章検索用簡易データベース」「近世邦楽詞章の謡曲摂取箇所データベース」を研究データベースとして公開することが出来た。以上を総括するに、当初掲げていた年度目標は十分に達成され、質の向上も顕著である、と考える。</p>		

## IV 2024 年度中期目標・年度目標

評価基準	研究活動
中期目標	学際的・国際的な能楽研究拠点として、研究資源である貴重資料の公開や基礎研究を進めるとともに、より広い領域の研究者との協同プロジェクトを展開していく。
年度目標	「能楽資料総合デジタルアーカイブ」「金春家文書デジタルアーカイブ」をさらに拡充するとともに、従来目録が作成されていなかった未整理資料についても、書誌データの作成とデジタルアーカイブ上での検索が行えるような体制を整備する。また、国際的な能楽研究の推進のため、英語版の能楽資料デジタルアーカイブにもさらにデータを拡充する。
達成指標	「能楽資料総合デジタルアーカイブ」「金春家文書デジタルアーカイブ」の拡充のため、新たに画像 300 点以上、書誌データ 800 点以上をアップ。英語版能楽資料デジタルアーカイブに新たに 40 点以上の英語解説データをアップ。
評価基準	社会連携・社会貢献
中期目標	学際的・国際的な能楽研究拠点として、研究資源と研究成果を積極的に還元するとともに、能楽界とも連携を強め、能楽の発展と世界への文化発信に寄与するよう努める。
年度目標	国際的な能楽研究・能楽普及の推進のために、最新の研究成果を盛り込んだ英語版能楽全書を刊行するとともに、能楽の普及・研究成果の社会還元のための展示・セミナー・講座等を実施する。
達成指標	英語版能楽全書の刊行。普及・社会貢献のための展示・講座等を 5 件以上開催。
<p>【重点目標】 能楽研究所が所蔵する膨大な能楽資料の網羅的横断検索が可能な「能楽資料総合デジタルアーカイブ」の拡充と利用促進。</p> <p>【目標を達成するための施策等】</p>	

専任所員だけでなく、兼任・兼担の各所員とも協同して、能楽研究所所蔵資料の書誌データの整備に集中して取り組むとともに、文科省機能強化支援の研究資金を積極的に活用し、RAの協力も得て、近代能楽雑誌のデジタル化と目次情報のデータ化を推進する。また、デジタルアーカイブのさらなる利用促進のため、ジャパンサーチとの連携についても検討を行う。